

2 1 6

こんにちは。塾長の大井です。

10期生となる3年生たちが入会してきました。

皆様のご支援のおかげでここまで継続して結果を出し続けてこれたことに、心から感謝しています。

6期生の卒業式のスピーチで、ある生徒が「私は日本一の塾に通いました。」と話し、また別の生徒が「TOPのような塾は日本中、いや地球上のどこにもないと思います。」と語っていました。自分たちもTOPに少なからぬ自負はありますが、生徒たちがそう思ってくれていることは、私たちにとってとても幸せなことです。

今回から、開成中をはじめ怒涛の合格ラッシュに沸いた6期生との受験道をふり返り、大切に記したいと思います。

1教室1教場主義。それがTOPの設立からの理念でした。いたずらに生徒を増やしたいのではなく、受験をツールに荒稼ぎしたいわけでもなく、自分たちにしかできない一人ひとり最大限に目を配れる少数精鋭の

教室を創る。そして中学受験が終わった後も、長く社会の各分野で旗手となるべく人材を育てる。それが私たちの変わらぬ理想です。

ただ、この6期生を指導するにあたって、この1クラス制が大きなネックになりました。6期生の子どもたちは、御三家の頂点校を目指す生徒から、なんとか私立中に合格したい生徒まで、実に幅広くレベルが分かれていたのです。

全ての大手塾が習熟度別のクラス分けをしているのは必然であり、至極当然のことです。特に差がつく算数や国語の深い読解では、クラスを分けて全員を伸ばすことは本当に至難の業です。多くの塾では全ての生徒に目が行き届かず、転塾してきたご家庭の話聞いても、下位のお子さんは歯牙にもかけない扱いをされることも珍しくないようです。

それでも、私たちはこの命題に真っ向から挑みました。入会を認めた以上、どのレベルの生徒も打ち捨てることはできません。

かくして10人が実に10レベルに分かれるクラスとの、長い受験道が始まりました。

(次回につづく)

2020年8月25日

大井 雄之